

公益財団法人 大学セミナーハウス主催

グローバルアカデミーセミナー

世界の中の中国と日本 現代中国理解Ⅲ

With/Post コロナの中国と世界



◆ セミナー企画委員 ◆

川島 真(委員長)	東京大学大学院	教授
小嶋 華津子	慶應義塾大学	教授
金野 純	学習院女子大学	教授
森 路未央	大東文化大学	准教授

◆ 2022年1月8日(土) ◆

◆ Zoomを用いたオンラインセミナー ◆

募集対象	大学生(大学院生、留学生含む)、社会人
募集人員	50名(先着順)
参加費	協力会員校学生(講師ゼミ生)500円 一般校学生1,000円、社会人3,000円
申込締切	2022年1月5日(水)
会場	Zoom ミーティングルーム

お申し込み方法

大学セミナーハウス HP (<https://iush.jp/>)
トップページの本セミナー告知欄より
申込ページに入り、必要事項を入力の上、
お申し込みください。

申し込み頁へ



お問い合わせ先

大学セミナーハウス セミナー事業部
Tel. 042-676-8512(直)
Fax. 042-676-1220
Email seminar@seminarhouse.or.jp

 大学セミナーハウス
INTER-UNIVERSITY SEMINAR HOUSE

With/Post コロナの中国と世界

開催趣旨

セミナー企画委員長 川島 真

この講座では、コロナとともにある、またはコロナ後の中国について、その世界との関わりを踏まえて考察することを目的とする。中国は共産党成立百周年を契機に全面小康社会が実現したとし、経済政策の面で「双つの循環」政策を取り、共同富裕と呼ばれる政策目標を設定している。対外的には、2049年の中華人民共和国の百年に際してアメリカに追いつくという目標を設定し、外交、軍事両面で積極的な政策を採用しながらも、現段階では気候変動などでアメリカとの協力を模索し、またCPTPPに参加申請をするなど自由貿易を支える姿勢を示している。このように、中国のことはある意味でわかりにくい面があるし、またコロナ下、あるいはコロナ前後で状況は急速に変化している。日本と中国との関係も、「新時代」という共通の言葉を踏まえて、どのように構想されていくのか。この講座では、こうした状況を踏まえて、「四つの大きな問い」を設定し、それを中心にしたグループ討論などを通じて、中国に迫る手がかりを得ることを目指す。

第1分科会

習近平政権および共産党による統治は、ポストコロナ時代も盤石でしょうか。



小嶋 華津子
慶應義塾大学 法学部 教授

習近平政権は発足以降、党が前面に立って政府のあらゆる業務を代行する制度を構築してきました。また、複数の共産党指導者による集団指導ではなく、習近平個人に多くの権力を集中させたことも、習近平政権下の統治の特徴の一つです。こうした統治体制の下、中国共産党は、イデオロギー教育、法、テクノロジー、公安や軍などのツールを用いて、統治の強化を図ってきました。このような体制や統治のツールは、ポストコロナ時代を迎える習近平政権さらには中国共産党の統治の安定に寄与するのでしょうか、それとも不安定要因となるのでしょうか。皆さんとじっくり議論したいと思います。

第2分科会

中国共産党の社会統制にはいかなるメリット、デメリットがあるのか？



金野 純
学習院女子大学 国際文化交流学部 教授

2021年、中国共産党は結党100年を迎えた。現在、中国共産党は党员9200万人以上を抱える世界最大の政党となり、今なお強力な一党独裁体制を維持している。その強権的ながらもスピーディーな政策実行能力は、中国におけるコロナウィルスの封じ込めに一定の効果を発揮したとされるが、他方で個人の人権への配慮の欠如は民主主義社会の人々に違和感を感じさせること事実である。現在、中国共産党による社会統制は、デジタル技術の積極的な利用と一党独裁に有利な法規制の拡大によって、かなり強固なものとなっている。変化の激しい現代社会において、その社会統制の在り方にはどのようなメリット、そしてデメリットがあるのか。本分科会では中国共産党による社会統制を多面的に議論したいと考えている。

第3分科会

中国経済は持続的安定成長を実現できるか？
～ポストコロナ期のリスクと対応策～



森 路未央
大東文化大学 外国語学部 准教授

中国経済は2010年代以降の減速傾向に対して、新たな発展パターンへの転換、構造改革による安定成長を目指しました。しかしその最中にコロナが発生し、2020年のGDP成長率は2.3%まで低下しました。回復が期待された2021年は、全人代においても「内需拡大」「対外開放の推進」などで構成される「双循環」政策を掲げたものの、半導体の供給不足、自動車販売の減少など消費停滞、これまで不安視されていた金融や不動産のリスクが表面化しています。こうした現状から、中国経済はコロナにかかる不確実性を回避し、どのように持続的安定成長を実現させるのでしょうか。本分科会では中国経済の安定成長の持続性を焦点に、現状、リスク、対応策などについて皆さんと議論していきます。

第4分科会

中国の目指す国際秩序とは何か。それは世界から支持されるのか。



川島 真
東京大学大学院 総合文化研究科 教授

習近平政権の下で中国はその対外関係を制度化した。まず、「党の領導」の下で対外政策も党の指導性を明確にした。また、政策面では新たな秩序形成を明確にし、新型国際関係という考え方を提起した。中国はもはやあらたな「標準」を創出する存在になろうとしている。だが、自由貿易枠組みなど、既存の秩序に寄り添おうとする分野もあり、他方で国連の下にある組織での行動のように途上国にとって不利な部分を是正しようとしていたり、あるいは先進国の作ったルールに反発する時もある。では、中国の想定している秩序はどのようなものなのだろうか。そして、世界はその秩序を受け入れられるのだろうか。その両面から中国の対外政策を考えてみたい。

スケジュール

9:30
9:35 ~ 10:45
10:45 ~ 12:00
12:00 ~ 13:00
13:00 ~ 15:00
15:00 ~ 17:30
17:30 ~ 18:30
18:30

開会・館長あいさつ

全体会1 (基調講演 30分・パネルディスカッション 40分)

分科会討論1

お昼休み

分科会討論2

全体会2 (各グループ討論結果発表・講師コメント・企画委員長総括)

懇談会 (自由参加)

閉会

2022年
1月8日(土)